

彦名通信

No. 166
平成23年10月



バスケット女子：初の全国大会出場：全国第3位



合唱：鳥取県大会初の金賞



放送：鳥取県史上初NHKコン全国第6位入賞



インターハイ ボート競技：全国第6位入賞

CONTENTS

目次

イベント特集

学生主事より	2
主な成績一覧	2
クラブ別報告	3・4・5
オープンキャンパス	6・7

クラス便り

4年学年主任より	8
4年機械工学科	8
4年電気情報工学科	8
4年電子制御工学科	9
4年物質工学科	9
4年建築学科	9
専攻科1年	10

寮生会便り

寮行事紹介	10
-------	----

研究活動

研究紹介	11
------	----

クラブ便り

吹奏楽部・科学部	12
----------	----

トピックス

建築学科・生物系三学会	12
各種コンテスト予選会等結果報告	13
後期行事予定	13

地域交流

中・高校生科学ゼミナール	14
公開講座	15
国際交流	16
学会賞受賞おめでとうございます	16
編集後記	16

イベント特集

クラブ活動 各種大会報告

学生主事 一般科目 森田 典幸

本年度の中国地区高専体育大会は7月9日・10日に開催されました。団体では女子バスケットボールが初優勝を飾り、個人では陸上・柔道・卓球・水泳・テニス・バドミントンの6競技で全国大会出場権を得るなど昨年以上の成績をあげ、8月に開催された全国大会においても女子バスケットボール・柔道・水泳で上位入賞を果たしました。

8月に東北ブロックで開催されたインターハイには卓球・ボート・ボクシングの3競技が県の代表として出場し、特にボートのシングルスカルはE3石畑君が見事に6位入賞を勝ち取りました。文化系では、昨年に続き放送部がNHK杯全国放送コンテストで活躍し、県のコンクールでは、吹奏楽部と合唱部が中国大会出場権を得るなど、体育系・文化系ともに活躍した夏となりました。

学生諸君の健闘を讃えるとともに、今後の活躍にも期待したいと思います。

主な成績一覧

第46回全国高専体育大会 (平成23年8月13日～9月4日)

- 陸上
 - 男子110mH 予選敗退(1組5位) 4M宇根輝
 - 男子走り幅跳び 18位 1E山脇克海
 - 女子砲丸投げ 14位 2D葦原有綺
 - 女子4×100mR(オープン) 6位 3C重永、2D葦原、2C石水、4C門脇
 - 男子200m(オープン) 欠場 5D古磯和樹
 - 決勝11組5位 4E岩浅純平
 - 女子円盤投げ(オープン) 5位 2D葦原有綺

■バスケットボール女子 3位

- 柔道
 - 男子90kg超級 3位 3E中曾哲史
 - 女子48kg級 3位 2C南口弓子

- 卓球
 - 女子シングルス 3位決定戦敗退 1C大畑ひかり

- 水泳
 - 男子200m自由形 8位 2C稲葉幹平
 - 男子100m平泳ぎ 5位 4A村尾太一 8位 1A森田悟史
 - 男子200m平泳ぎ 2位 4A村尾太一(大会新記録)
 - 男子200m個人メドレー 予選敗退(18位) 1A森田悟史 予選敗退(19位) 5D武良優輝
 - 男子400mリレー 6位 5D武良、2C稲葉、1A森田、4A村尾
 - 男子400mメドレーリレー 5位 5D武良、4A村尾、2C稲葉、1A森田

- 女子50mバタフライ 予選敗退(15位) 4A船越杏子
- 女子200mリレー 11位 4A船越、3A井戸垣、4A吉田、1D森

- テニス
 - 男子ダブルス 2回戦敗退 4D横山大志・4D藤村駿造

- バドミントン
 - 男子シングルス 1回戦敗退 5D宮原亮太
 - 男子ダブルス 1回戦敗退 5D宮原亮太・5E椿彰人

平成23年度全国高等学校総合体育大会 (平成23年7月28日～8月20日)

- 卓球
 - 男子シングルス 1回戦敗退 3E河本航大

- ボート
 - 男子シングルスカル 6位 3E石畑祥太郎

- ボクシング
 - バンタム級 1回戦敗退 2E松永勝利

その他の大会・コンテスト

- 全国高等学校野球選手権大会鳥取県予選 一回戦 米子高専3-7鳥取東高校

- 第64回鳥取県選手権水泳競技大会
 - 200m平泳ぎ 1位 4A村尾太一
 - 100m平泳ぎ 2位 4A村尾太一 3位 森田悟史
 - 50m自由形 3位 5D武良優輝
 - 400mリレー 3位 4A村尾・5D武良・2C稲葉・1A森田

- 800mリレー 3位 4A村尾・5D武良・2C稲葉・1A森田

- 第51回鳥取県吹奏楽コンクール大学の部 大学の部 金賞(中国大会進出)

- 第58回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会 ラジオドキュメント部門 準々決勝敗退 創作ラジオドラマ部門 製作奨励(同率11位) テレビドキュメント部門 準々決勝敗退

- 創作テレビドラマ部門 入選(同率6位) 校内放送研究発表会 研究奨励

- 第50回全国合唱コンクール鳥取県大会 大学の部 金賞(中国大会進出)

- 第18回全国高専将棋大会 団体戦 ベスト8 個人戦 3位 2D塩見 ベスト16 1A河本

速報

- 秋季県高校野球大会 創部初! 米子高専ベスト4進出! (詳細は次号にて)

女子バスケットボール部:中国大会初優勝、初出場の全国大会3位

顧問 物質工学科 藤井雄三

7月10、11日に津山で開催された中国地区高専体育大会で優勝し、駒沢で開催された全国大会（8月20、21日）に初めて出場することができました。女子部設立当初には地区大会優勝のチャンスもありましたが、部員数の減少による休部ののち、三年前に再開し、念願の地区大会初優勝、全国大会初出場を勝ち取りました。

地区大会予選リーグの初戦は昨年度優勝した宇部高専との対戦、1Qは一進一退の攻防、2Qの最後に引き離されて前半を終了、後半が始まって3A藤山のスリーポイント、4A清水のリバウンドシュート、3D濱田のミドルシュートで逆転し、引き離しましたが、追いつかれ、44対43の僅差での勝利。次の広島高専戦は全員得点で勝ち、予選リーグを1位通過しました。予選1位同士の決勝は松江高専との対戦、定期戦でも勝てなかった相手を序盤よりリードし、途中追いつかれそうになりながらも3A永井のスリーポイント、1A若林のリバウンドシュートで突き放し、53対40で勝利し、初優勝を決めました。一昨年、昨年と宇部高専、松江高専に勝てず、悔しい思いをした結果が実を結びました。

初出場の全国大会の初戦は函館高専との対戦、緊張のため序盤はペースをつかめませんでした。途中から引き離し、82-47で全国大会初勝利を挙げました。準決勝は2連覇中の鈴鹿高専戦、緊張が抜きれず、序盤から引き離される苦しい展開が続く、必死に食らいつきましたが、最後までペースをつかめず敗退。結果、3位で全国大会を終えましたが、優勝を目指し、お盆も返上し練習してきた学生は結果に満足することなく、来年度、鳥取で開催される全国大会を目指してがんばってもらえるものと思います。

最後に、日頃よりバスケットボール部の活動に対して、ご支援を賜り誠にありがとうございます。今後ともご支援・ご声援の程、よろしくお願い申し上げます。

**柔道部:個人戦中国大会優勝、全国男女3位**

顧問 一般科目 永井 猛

柔道の中国大会は、東広島運動公園（アクアパーク）体育館武道場で開かれ、団体戦は予選リーグで敗退したものの、男子個人戦90kg超級では、3Eの中曾哲史君が3年連続の優勝を成し遂げました。準決勝では120kgの相手を、決勝でも98kgの相手を一本勝ちで下し、見事な優勝でした。

全国大会は、8月21日、柔道の聖地というべき講道館で行われました。本校からは中曾君と女子個人戦48kg級の地区代表となった2Cの南口弓子さんが参加しました。中曾君は初戦、大内刈りで一本勝ち（写真）、次の試合も払い腰から袈裟固めで勝ったのですが、準決勝で110kgの相手に技を返されてしまい、決勝に駒を進めることができませんでした。終始攻め続けた、堂々の3位です。南口さんも、準々決勝を背負い投げで一本勝ちし、準決勝では敗れましたが、2年連続の3位に輝きました。

全国大会で3位になった二人の功績を讃えると共に、柔道部のさらなる活躍に期待したいと思います。

**陸上競技部の大会報告**

陸上部顧問 南 雅樹

中国高専大会は、昨年と同じ東広島市陸上競技場で開催され、10名以上の1年生も参加して総勢30名を超える部員で戦いましたが、団体（男子5位、女子4位）、優勝者0名、全国高専出場権獲得は3名+女子400mRという結果に留まりました。特に、男子100m、200mと400mRは全国高専の連続出場が途切れてしまいました。ただ、全国高専まであと少し（決勝進出者）の種目が10を数えますので、次年度に向けて高い目標を掲げて大会を終えました。

全国高専大会は、8/27～28に長野県（長野市営陸上競技場）で開催され、本校からは男子5名、女子6名（マネージャーを含む）の合計11名が参加しました。男子110mHの宇根（4M）と走幅跳の山脇（1E）、女子砲丸投の藪原（2D）は自己記録に及ばず、いずれも予選通過はなりません。この大会は、改修された新しい走路の影響から短距離種目に好記録が続出し、本校が3年前に記録した男子400mRの大会記録も更新され、全国のレベルは年々高くなっていると感じました。本校が開催とする次年度の全国高専で捲土重来を期すことを誓った大会となりました。



テニス部:全国高専テニス選手権大会(千葉)に参加して
硬式テニス部・主将 D4 横山大志

第34回全国高専テニス選手権大会は、8月25日から27日までの3日間、サニーインむかいテニスコート(千葉県白子町)で開催されました。

米子高専からは個人戦男子ダブルスのみの出場で、D4藤村駿造君とペアを組み、今大会に臨みました。試合結果は、1回戦、佐世保高専に8-4で勝利しましたが、2回戦で福島高専の5年生ペアに4-8で敗れ、メダルまであと1勝でした。

今大会で、普段米子高専で練習しているレベル(技術面と精神面)と全国に出場している他高専のレベルの開きを実感し、大きな刺激になったと思います。

主将として、来年のこの舞台には団体戦で出場したいと思っており、今回得られた体験や考えを部員全員にまず伝え、米子高専のレベルを少しでも全国水準に近づけたと考えています。

4年生の僕らですが幸いあと1年の時間があります。その1年で今大会のリベンジ(復讐ではなく全国優勝に向けた再挑戦)ができるよう、チームが一つになって練習していこうと思います。

今回の大会でも多くの教職員、OB・OG、そして地元社会人テニス・チームBSCの方々にも、たいへんお世話になりました。とても感謝しています。

これからも引き続いて、応援そしてサポート頂きますよう、よろしくお願ひします。



バドミントン部:大会報告

4E 小池俊介

私たちバドミントン部は、全国大会出場を第一目標に日々練習に励んできました。今大会の結果は団体戦男子3位・女子2位で男女共に団体戦での全国大会出場はなりませんでしたが、しかし、男子個人戦でダブルス椿(5E)・宮原(5D)組2位、シングルス宮原2位という結果で全国大会出場を果たしました。準決勝・決勝での先輩方の気迫は素晴らしく、とても誇らしく思いました。部長としては団体戦で出場したかったというのが本音ですが、5年生の頑張りが最後に報われたことを心から嬉しく思います。女子個人戦も健闘しましたがあと一歩及ばず全国大会出場はなりませんでしたが。来年以降の女子部の活躍に期待しています。今大会は自分達の勝負に対する弱さというものを痛感し、精神的に強くなることも今後の課題であると感じました。

来年の全国大会は米子で開催されます。男女共に団体戦・個人戦での初戦突破を目指し、残り1年意味のある練習をしていきたいと思ひます。



ボート部:インターハイの感想

3E 石畑祥太郎

8月5日から9日にかけて岩手県花巻市田瀬湖ボートコースで開催された全日本高等学校選手権競漕大会に出場してきました。ボート競技のレースは水上のコンディションによって漕ぎやすさが変わりますが、会場の田瀬湖は波が立ちにくく良いコンディションの中、レースができました。結果は、男子シングルスカルで6位に入賞しました。3着上がりの予選で3着というギリギリの結果で通過したときは次のレースで勝てるのか不安でしたが、自分の練習してきたことを信じてレースに臨めば準々決勝、準決勝で勝ち、思い切って決勝でレースができました。10月には、高校生活での最後の大会である国民体育大会があるので、良い結果が出せるように頑張りたいです。



卓球部:青森インターハイ出場

卓球部指導教員 電子制御工学科 河野清尊

平成23年度全国高校総体卓球競技(兼第80回全国高校卓球選手権大会)が8月9日(火)から14日(木)まで新青森県総合運動公園総合体育館・青い森アリーナで行われました。本校からは、E3河本航大が男子シングルスに2年連続で出場しました。

昨年は1回戦で敗退しましたので、今年は1回戦突破を目標にして臨みました。大会4日目の1回戦、相手は強豪校の選手でした。1・2ゲームを取り、3ゲーム目も5-0とリードしてそのまま押し切るかと思われましたが、相手にタイムアウトを取られた後は流れが完全に変わり、その流れをこちらに戻すことができませんでした。天国と地獄を味わい、卓球の難しさを痛感した試合でした。しかし、良い経験になりました。

この夏はインターハイの他に、全国高専体育大会卓球競技の女子シングルスにC1大畑ひかりが、ミニ国体(国体中国ブロック予選会)の少年男子にE3河本航大とM1永井知明が出場し健闘しました。

今後も新たな目標に向けて努力を続けて行きたいと思ひます。応援いただいたみなさんに、また日頃からご支援・ご声援いただいているみなさんに深く感謝します。ありがとうございました。



インターハイ会場前にて

		11 - 7	
		11 - 7	
河本航大	2	7 - 11	3 星 智仁
		3 - 11	(岩手・専大北上高)
		2 - 11	

ボクシング:インターハイ出場

機械工学科 原 圭介

平成23年度全国高等学校総合体育大会(2011 熱戦再来 北東北総体)ボクシング競技が8月8日(月)から8月15日(月)までの1週間、秋田市立体育館にて開催され、2E松永勝利くんが鳥取県代表としてバンタム級に出場しました。一回戦の相手は青森北高等学校の東北チャンピオン小山内選手、お互いにスピードのあるハイレベルな攻防で、一時も目を離せない緊張感のある試合が繰り広げられました。そして全3ラウンド一進一退の攻防が続き、勝利の行方は判定となりました。両者の有効打はともに2打程度と勝利くんのコーチも言うておられ、鳥取県代表チームで固唾を飲んで判定結果を待ちました。ジャッジは2対0、相手の有効打が2発、勝利くんの有効打はカウントされず僅差での敗北となりました。しかし、昨年とは違い全国で10指に入る選手と互角に渡り合える実力をつけており、今年の悔しさと経験を来年の最後の夏に活かしてくれると大いに期待しています。



水泳部:全国大会を終えて

4A 村尾太一

今年の全国高専大会は、8月28日、千葉県国際総合水泳場で行われました。今年の米子高専は個人種目で三名が予選を突破し、決勝の舞台で活躍することができました。また三つのリレー種目でも決勝に進出し、男子400mメドレーリレーでは5位入賞するなど、昨年以上の好成績で今シーズンを終えることができました。しかし目標としていたリレーでの表彰台には届かず、全国とのレベルの差を痛感させられました。来シーズンはリレーを支えてきた5年生二人が引退し、より厳しい戦いになると思いますが、部員全員が一丸となり今年果たせなかった目標に向かって練習に励んでいこうと思います。ご支援いただいた教職員の方々、OBの方々、また日頃から部員を支えてくださる保護者の皆様への感謝の気持ちを忘れず、ご期待に応えられるようこれからも精一杯頑張ります。今後とも水泳部をよろしく願います。



放送部:Nコン全国大会入選(6位)

電子制御工学科3年 寺西 心(放送部部長)

テレドラ入選!ラジドラ制作奨励!

去る7月27・28日、私達、米子高専放送部は第58回NHK杯全国高校放送コンテスト(以下Nコン)全国大会に出場し、創作テレビドラマ部門で「としょふたり」(二人の図書委員のライバル対決を描いた物語)が入選(全国6位)、創作ラジオドラマ部門で「スネークマインド」(蛇遣いがもし日本の伝統芸能だったらという一風変わった話)が制作奨励(全国11位)を頂きました!

今年のNコンでは、番組制作4部門に加えて研究発表会で県大会を勝ち抜き、4年連続となる全国進出を果たしました。全国大会での入賞も昨年に引き続き2年連続3回目となります。今大会は1,613校の参加があり、創作テレビドラマ部門は405本、創作ラジオドラマ部門は748本もの応募があったそうです。そうした中でかなりの上位に食い込めた事は、鳥取県の代表としても、また1高専としても、大いに誇れる事だったのでないかな(にっこり)と感じています。

また、惜しくも入賞は逃したものの、テレビドキュメント「岩ちゃん空を診る~光害って知ってる?~」とラジオドキュメント「時報サイレン」も内容の濃い作品に仕上がっています。また今回、米子高専として初めて研究発表会に出場しました。私たちは「放送室がない!」というタイトルでコンピュータを活用した日頃の活動内容を発表しました。

さて、まだまだ歴史は浅いにも拘わらず、破竹の勢いと言っても過言ではない躍進を見せている(やっぱ過言かも・笑)私たち放送部。今年度は16名の新入部員を迎え32名の大所帯となり、活動場所の狭さと作品制作の難しさに苦しみながらも、着実に成果を出しつつ活動の幅を広げています。部長としては、今後は後輩への技術、文化、ハートの継承が肝になってくると思いますが、そこら辺もまだまだ試行錯誤が続きそうです。まぁ理想は高邁に、これからも突き進むのみです。最後になりましたが、今回応援・協力して下さった皆様、本当にありがとうございます。全国出場した作品は高専祭で上映致しますので、そのときまたお目にかかりましょう。



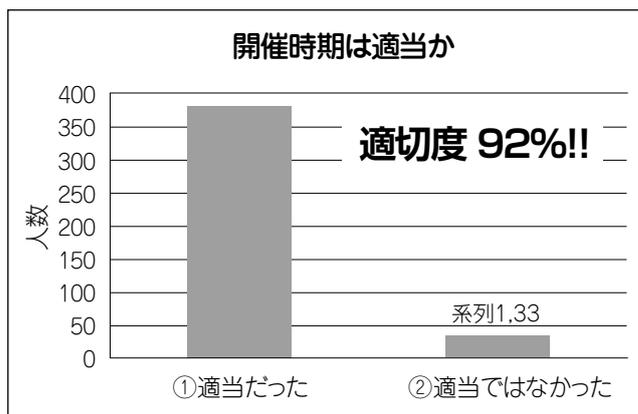
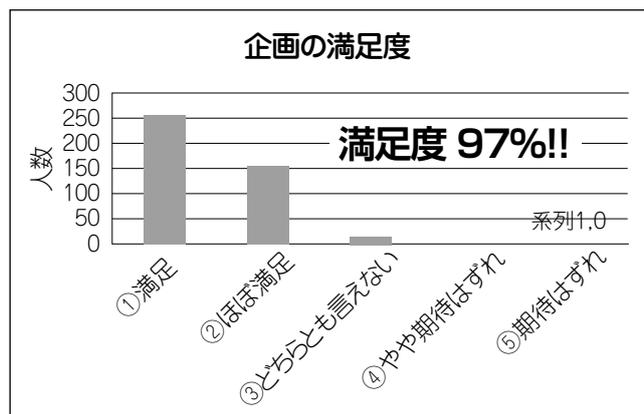
オープンキャンパス（学校見学会）

8月19日（金）に中学3年生を対象に第1回オープンキャンパスを開催しました。中学生449名、その他保護者、引率者約100名という多数の方々に参加していただきました。

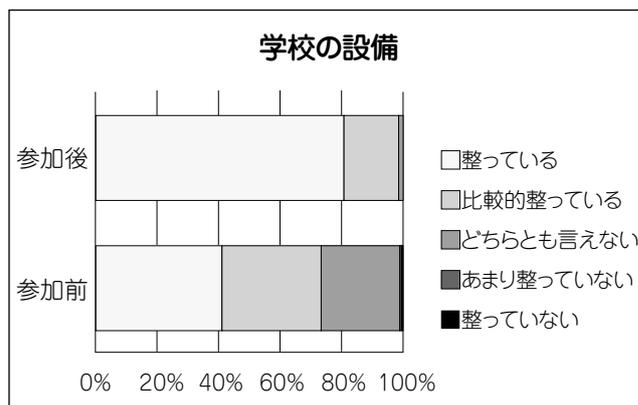
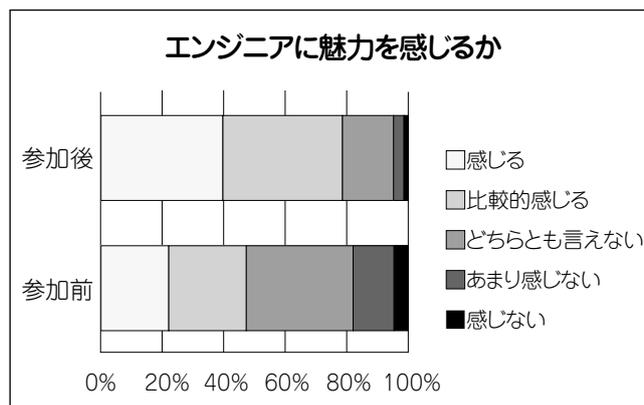
参加者が多かったため、3会場に分散して学校・学科の概要説明を行い、その後に午前の学科体験を行いました。また、昼には食事休憩を兼ねた校内自由見学を行いました。なお、そのとき学生会役員にガイド役をつとめてもらい、参加者の皆さんから好評をいただきました。

続いて、午後の学科体験を実施し、希望者には寮の見学もしていただきました。当日の様子をアンケート結果と合わせてお知らせします。

- アンケートの結果、オープンキャンパスの満足度は97%、また、開催時期が適切であるという回答は92%にのぼりました。



- アンケートではオープンキャンパスへの参加前後で高専に対するイメージがどのように変化したのかも答えてもらいました。代表的な結果を以下に示しますが、エンジニアに対する意識も学校の設備についての認識も参加前後で大幅に向上しており、この結果からもオープンキャンパスが大成功であったことがうかがえます。



- アンケートに寄せられた感想の中から特徴的なものを以下に示します。

○オープンキャンパス全体に対する感想

- ・とても面白かった。楽しかった。
- ・専門学科の説明が楽しくて、入学したいという気持ちが強まりました。
- ・学生の皆さんがとても親切で優しくかった。
- ・学校の設備がとても整っていてすごいと思った。
- ・部活動の見学時間もほしかった。

■ 機械工学科



■ 印象に残ったこと

ジェットエンジンやロボットなどを見学しました。ぶんちん作りなどの実際の作業も好評でした。

■ 電気情報工学科



■ 印象に残ったこと

電気自動車が好評でした。また、ロボコードというプログラミングやLEDによるランプ作りの体験にも関心が集まりました。

■ 電子制御工学科



■ 印象に残ったこと

レゴ・マインドストームやiPadが好評でした。また、脳波実験にも関心が集まりました。

■ 物質工学科



■ 印象に残ったこと

液体窒素で花やボールを凍らせる実験が好評でした。またポカリスエットを使った実験にも関心が集まっていました。

■ 建築学科



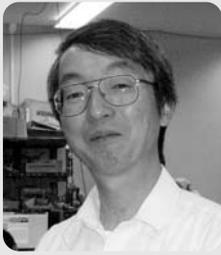
■ 印象に残ったこと

CADソフトを使った住宅設計が人気でした。また学生達の模型などの作品にも関心が集まっていました。

クラス便り

4年

H23年度インターンシップについて



学年主任
機械工学科
矢壁 正樹

震災の影響によりインターンシップ受入をいただける企業が減るのではないかと懸念しておりましたが、今年度のインターンシップ受入可能企業数は昨年より29社増の184社となりました。しかしながら、実質的な総受入人数率は昨年の695名から111名減の584名となり、厳しい世情を反映した結果となりました。学生にとっては「希望する企業から受入がない」「受入枠が減ったので選考にもれた」など、必ずしも希望どおりにならなかったかもしれませんが、ある意味では来年度の就職活動の前哨戦と捉えれば、実社会の厳しさを知る機会となったのかもしれない。それでも、本科生全員が参加することができ、実際にインターンシップより帰ってきた学生に感想を聞くと全員が「有意義でした」という答えが返ってきました。学生にはインターンシップを通して学んだことを今後の学生生活に生かしてくれる事を望んでおります。終わりにインターンシップに受入いただいた、また関わっていただいた企業・団体法人様にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

インターンシップに参加して 桑本 彰文

私は夏休みの10日間、インターンシップで村田機械株式会社さんにお世話になりました。

主な実習内容は限られた材料、期間で、モーター一つで動く250mm角以内の大きさの工作物をつくるというもので、3名で1班とし計5班で5つの作品を製作しました。なかなか工作物がうまく動かず定時を過ぎることもあり、社員の方々には大変ご迷惑をおかけしましたが、その介もあって5班の作品の中で総合優勝することが



できました。その他にも工場見学やシーケンス制御、3D CAD講習などもあり、とても充実していました。

また、高専を卒業された先輩の話の聞いたり、休日には社員の方々と一緒に過ごせたのでいい思い出になりました。

今回の実習で学んだことは様々ありますがその中でも、ものづくりにおける構想の重要性を学ぶことが出来、これからは活かしていこうと思います。

インターンシップに参加して 松田 有加

私はインターンシップで、オムロン株式会社草津事業所にお世話になりました。実習内容には、研修、交流会、会社説明、会社見学がありました。

研修では、グループで一つの回転ずしを担当し、シーケンスでMOTTAINAIを表現したのですが、その中で一番感じたのは、コミュニケーションの大切さです。何故なら、構想・設計・実装は3日間だけなので、役割分担をしないと構想を実現するための時間がなかったからです。また、インターンシップに行く前に事前学習をして行きましたが、今回の研修でセンサーやラダー図などを深く知ることが出来ました。

6日間という短い期間でしたが、技術を学んだり、研修を通していろんな人と触れ合ったりととても有意義な実習でした。



インターンシップ 中村 宏

私は8月22日から26日までの5日間、インターンシップでNTTファシリティーズ鳥取支店にお世話になりました。NTTファシリティーズはNTTグループの電力・建築分野を担っている会社で、今回は主に電力設備について学びました。実習内容は座学や交換所やビルの電源・通信設備の見学、非常用電源の始動試験などでした。実際の業務内容は設備の点検や洗浄など地道な

作業もありましたが、社員の方からはどんな時でも日本の通信を途切れさせてはいけないという強い責任感と仕事に対する誇りが伝わってきました。あっという間に過ぎた5日間でしたが、この実習を通して社会で働くということの大変さ、また普段の授業で学んでいることが現場ではどのように活かされているかを学ぶことができました。

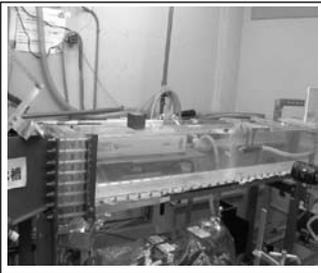
インターンシップを終えて 遠藤 駿

僕は滋賀県草津市にあるパナソニック株式会社ホームアプライアンス社へ5日間のインターンシップを取り組ませていただきました。実施内容としては、会社の概要説明等、冷蔵庫ビジネスユニットの工場見学、そして、工場のラインで実際に実習をしました。

5日間という短い間でしたが、友達もでき楽しく、社会人になってから役に立つと思うことを数多く学ぶことができました。その中でも一番印象に残っていることは、製品に対することで、工場では10000個の中で1個の0.01%の欠陥でもお客様はその1個が当たればそれは100%の欠陥となるという品質に対しての心がけのようなのを学びました。

電子制御工学科

大学のインターンシップを終えて 内藤 寛晃



僕は、インターンシップで山梨大学に行きました。そこでの実習は「レーザを利用した流体の速度計測法の習得」というものでした。流体とは水や空気など、絶えず形を変えながら移動していくものことです。絶えず形を変えてしまうため、その計算はとても難しく、研究などが行われ始めたのも比較的最近のことでした。

僕がこの実習で注目したのは、レーザを用いて、粒子などの速度を測るという技術です。物体に当たり屈折したレーザをカメラで撮影し速度が測れるというのは、ある程度の原理を聞いた上でも、やはり不思議だと思えるものでした。教員の説明は分かりやすく、大学、大学院生の方も接しやすく、とても充実したインターンシップでした。

インターンシップを終えて 寺本 巨宏

僕は8月22日から26日までの5日間コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)のインターンシップに参加しました。最初の3日間は「複合機の分解」、「フロアの見学」などを体験し残りの2日間はカスタマエンジニアの方と顧客様の所へ複合機の点検に同行させていただきました。実際に働いていらっしゃる現場に行かせて複合機の点検、修理の様子を拝見させていただき、真剣味を感じました。もちろん、複合機のメンテナンスも重要ですが、一番大切なことは「お客様とのコミュニケーション」だとエンジニアの方はおっしゃいました。お客様がその複合機をずっと使用していただくことが大切で、社会人としてのマナーが悪いと、他のメーカーに替えられてしまう

可能性がありま

す。今回のインターンシップで、何より「人とのコミュニケーション」が、社会人として特に重要だと感じました。



インターンシップについて 松井 郁也



僕は、インターンシップで、三菱化学水島事業所に行きました。三菱化学では、原油を蒸留することで得られるナフサと呼ばれるものを分解し、エチレンやプロピレンなどの石油化学製品の基礎原料を製造しています。これらの基礎原料を元に、様々な製品が作られます。今回のインターンシップでは、この過程で使われるエチレンプラントなどの見学をさせていただきました。その他にも、様々な体験学習や高専OB・OGとの懇談など、貴重な体験をさせていただきました。

今回の実習を通して、1番心に残ったことは「安全の大切さ」です。三菱化学では安全を第一に考え、指差呼称や正しい服装の着用などを徹底しておられました。この実習を通して学んだ事を、今後の生活に役立てていけたらなと思っています。

インターンシップで得たもの 嘉村 茅夏

8月22日から26日の5日間、私は塩野義製薬撰津工場と同じ敷地内にあるシオノギ分析センターへ行ってきました。撰津工場では、医療現場などで見られる固形剤、注射剤など主力製品の製剤・小分包装などの多くを製造しており、分析センターでは医薬品等の試験、分析業務の受託、及び表面、環境分析の受託などを行っています。今回の実習内容は主に、班に分かれて、工場見学や実際にされている実験を体験させていただくものでした。中でも一番印象に残っているのは、製薬会社ということもあり、製造環境や品質管理が徹底されていたということです。当たり前のことですが、薬とは健康でない人が服用するものなので少しでも不備があれば命に係わる問題になってしまいます。このように、重要な仕事現場で勉強させてもらい、とてもよい経験になりました。又、企業の厳しさや、人との関わりの重要性、将来の自分の在り方など考えさせられることや得たことが多くありました。今後の自分の為に、有意義な時間を過ごせてよかったと思います。



物質工学科

インターンシップを終えて 足立恵里子

私はNTTファシリティーズという組織設計事務所にインターンシップに行かせていただきました。はじめに「広島空港のサイン計画」の課題が出されました。この課題を通じて、改めて図面作製やプレゼンテーション能力はとても大切なもので、自分をもっと高めていかなければならないと思いました。次に、改装工事中のビルの工事現場を見学させていただきました。そのビルは米子高専を卒業した先輩が設計を担当したもので、改装工事の内装デザインを手がけているのも米子高専を卒業した先輩でした。社会で活躍している先輩方の姿をみて「私も将来こうなれたらいいな。」と、とても強く思いました。しかし、そうなるには自分にはたくさんの努力や年月がかかりますが、くじけずに頑張ろうと思いました。



インターンシップで学んだこと 寺澤 美春

私は、東京都にある三菱地所コミュニティ株式会社で10日間のインターンシップに参加しました。建物を守る管理の仕事に興味があり、仕事内容を理解することを目的として今回の実習を受けさせていただきました。日常修繕を始め、点検・維持管理や何十年先の修繕計画等マンション管理の一連の流れを体験しました。このインターンシップで得られたものとして、実習をして業務を理解できたのはもちろん、社会人としての仕事に対する姿勢は私の目から見て心から尊敬できるものでした。また、「考える力」がどれだけ大切か教えていただきました。日頃からどんな些細なことでも、「考え・学び・得る」ことで自分自身成長できる糧になると実感しました。実習で学んだことを活かし、今後、より広い視野を持って学校生活を送っていきたいと思います。



建築工学科

専攻科1年

インターンシップを通して

生産システム工学専攻
新 優志

私は福岡県北九州市にある日鐵プラント設計という会社で2週間の研修を受けさせていただきました。様々な研修内容がありましたが、私が一番印象に残っているものは部門実習です。部門実習では環境プラント部門に配属され、工場などを設計するために必要な強度計算や流量計算などといった実際の設計業務に近い研修をさせていただきました。そこで、今まで学校で学んできたことが会社の設計という現場でどのように使用されているのか実感することができました。また私自身の勉強不足を感じる点もあり、今後の学校生活でさらに勉学に励もうと思います。このインターンシップを通して自分が将来どのような仕事やりたいのか考えが強く固まるとも良い経験ができました。



インターンシップに参加して

物質工学専攻
角 襟香

私は、広島県尾道市にある日東電工尾道事業所の製造技術部で、2週間のインターンシップを受けさせて頂きました。尾道事業所では液晶ディスプレイの光学フィルムを製造しており、私は、偏光板に塗工される粘着剤の評価を行いました。職場では皆、話し合い、協力し合って、楽しくスムーズに仕事を進めていました。この姿を見て、コミュニケーションの重要性を再認識することができました。また、2週間という短い期間でも、様々な測定操作等をさせていただき、操作をする際に学ばなければならないこともたくさんあり、勉学の重要性も再認識することができました。この2週間で、様々なことを学ぶ意欲がわき、今後に繋がるとても良い実習となりました。



寮生会便り

寮 祭

高砂寮・寮祭実行委員長 3D 西村 康祐

6月24日・25日に寮祭を行いました。

自分にとって初めての大きな仕事だったので、失敗に対する不安でいっぱいでした。

実際に準備をしていくと、自分の思っていた以上に仕事が多く、部活と学業の両立に苦しんだ時もありました。自分の仕事が至らないこともあり、迷惑をおかけしたことも多かったと思います。こうして無事に寮祭を終えることが出来たのも、高砂寮寮長をはじめとする役員の方々や先生方、悩んだ時に相談にのってくれた友達のおかげです。本当に有難うございました。

今回の経験を生かし、来年の寮祭実行委員長にしっかりと引き継ぎを行います。



球 技 大 会

高砂寮・体育委員長 3A 山瀬 哲也

5月11日、球技大会を行いました。上下関係なしの球技大会。今年の球技大会も、下級生チームが上級生チームに下剋上を果たし見事に勝利するなど、見ごたえのある試合がいくつもあり、運営する側の私も大変楽しませていただきました。

大会の進行については、私の至らぬ点が多く、たくさんの方々に迷惑をかけてしまうこともありました。ですが、まわりの役員の方や先輩方、友人達の力を借り、なんとか終えることができました。

後期の球技大会では、今回の反省を活かし、より一層みなさんに楽しんでいただける球技大会になるよう頑張ります。



研究紹介

建築学科 玉井 孝幸 研究室

私の研究室では、コンクリートの強度や耐久性に関する研究を主に行っています。この研究の他に、学生とともに日本を離れ海外でのプロジェクトにも取り組んでいます。

これまで、玉井研究室では学生を連れて海外に渡航したことが3回あります。1度目は中国山東省の青島(チンタオ)で青島農業大学と青島理工大學を訪問、2度目はインドの東海岸の南に位置するタミルナードゥ州カーンチープラム郡コヴァラム村という貧困層への技術移転プロジェクト、3度目は今年度9月10日から2週間、ロシアのウラジオストク市で木造の屋根を極東国立連邦大学の学生とともに建設するプロジェクトです。ロシアでのことは別の機会(この原稿はロシアへの渡航中に書いています)にして、今回はインドでのことを紹介します。

インドでのプロジェクトは、JICA(国際協力機構)の「草の根技術協力事業」というプロジェクトに技術協力として参加しました。JICAでは貧困層に対する支援を主に行っているため、私たちの支援先も貧困層で、言葉も現地語(タミル語)であり、英語は通じませんでした。また、活動は8月で真夏の炎天下という過酷な状況でした。最初の印象は、「こんな場所で、コンクリートの製造方法、建設方法について指導するのか」と言うものでしたが、現地の貧困層の子供は元気で、笑顔が素敵で、目は輝き、貧しさという悲壮さは全くなく、集まってきては、片言の英語で「Hello!」「Japan!」「Bye Bye!」と叫び散って行くという感じでした。

活動を開始すると、言葉が通じなくても、図面やイラストで共通認識ができ、一緒に実際にやってみることで伝達でき、ものが出来あがります。改めて、図面やイラストは万国共通であり、ものづくりの原点のような気がしました。

最初は戸惑っていた米子高専の2名の学生と他大学の学生らと写真のような、竹筋コンクリート製のバイオトイレを建設しました。バイオトイレとは、排泄した大便に灰などを混ぜ、微生物によって分解されることによって肥料ができるトイレです。貧困層にとって肥料は、菜園での使用のほか、肥料を売る事による現金収入になります。トイレがあることは、日本では常識ですが、インドの貧困層ではトイレを使わず、ほとんどの人たちは外で用を足すため、トイレはありません。バイオトイレの普及によって衛生面でも良くなります。

全く日本の常識感が通じない地域での活動は、私もですが、多感な学生にとって大きな刺激になり、学生生活や就職してからの企業人生活で、様々な局面を乗り越える力になると思っています。今、社会からは、学力に加え、人間力を求められています。玉井研究室では、研究室での活動を通し、人間力を培ってほしいと一番に考えています。



インド・コヴァラム村での活動状況

研究紹介

物質工学科 伊達 勇介 研究室

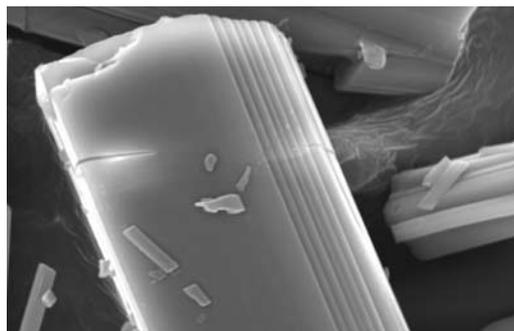
私は今年度から母校の教員として10年ぶりに米子高専に戻ってきました。前職ではリサイクル材料や表面処理などについて研究を行うとともに、各種の化学分析・評価などを行ってきました。

私は現在、「軽元素を用いた水素貯蔵材料の開発」をテーマとして研究を行っています。「水素貯蔵材料」というのは身近なところでは、水素吸蔵合金として二次電池(充電機)に使用されています。電池をよく見るとNi-MHという表示があると思いますが、これはニッケル-水素充電機であることを表しています。

近年の環境意識への高まりもあって、ガソリンなどの化石燃料に代わるクリーンなエネルギー源として水素が注目されていますが、実は水素をエネルギー源としたとき最もネックとなるのが水素の貯蔵方法です。前述の水素吸蔵合金を貯蔵方法として採用したときの最大の問題が「重い」ということです。例えば将来的に燃料電池車に搭載する場合、現在のガソリン車と同じくらいの距離を走るためには数百キロの水素吸蔵合金が必要となってしまい、近年の省資源の考え方とはまったく逆行する形となってしまいます。

一方、軽元素であるB(ホウ素)、C(炭素)、N(窒素)を基本の骨格としてもつような材料であれば、骨格となる元素が軽いので、合金と同じだけの水素を吸蔵できるなら、それだけで数倍の水素を貯蔵したことになります。現実には、そんなに単純な話ではありませんが、軽元素における水素貯蔵は、その可能性を秘めていると言えます。

そこで、当研究室では上記の軽元素を主成分として単体、もしくはそれらの化合物の水素貯蔵材料としての可能性についての研究を進めています。



BN(窒化ホウ素)のSEM写真

吹奏楽部の行事報告

吹奏楽部顧問 山田 祐司

●吹奏楽コンクール鳥取県大会大学の部

7月31日(日)にビッグシップで行われた標記のコンクールに出場しました。昨年はコンクールが前期末試験期間中だったため出場できませんでしたが、今年は県の吹奏楽連盟の特別な配慮で大学の部のみを別日程で単独開催してもらい、出場ができました。結果は金賞を受賞して、中国大会へ出場することになりました。(演奏曲目:課題曲—マーチ・ライプリー・アベニュー、自由曲—いつも風 巡り会う空(福島弘和) 出場者数は17名でした。

●吹奏楽コンクール中国大会

中国大会は8月27日(土)に広島市文化交流会館で開催されました。大学の部には中国5県から大学6団体、高専2団体(米子、松江)が出場しました。結果は銅賞でした。来年は銀賞以上を受賞できるようにこれからも練習に励みます。



全国一斉!夜空の明るさ調査研修会に参加

科学部(環境班) 2年建築学科 岩本直樹・柴田孝祐

7月2日、3日に岐阜県安八町にあるハートピア安八で行われた「全国一斉!みんなで夜空の明るさ調査研修会〜環境特に光害を考える〜」に参加しました。全国各地から光害の研究をしている先生や高校生が集まりました。この研修会では主に3つのことを行いました。

1つ目は夜空の明るさを一定の間隔で測定し続ける機材の説明を受けました。これは現在米子高専の屋上に設置し、測定しています。

2つ目は一眼レフカメラによる夜空の明るさ測定と星空の撮影をしました。一眼レフで星空を撮影するのは初めてだったので、苦戦しましたがきれいな写真が撮れて感動しました。

3つ目はエアロゾルについての講演を聞きました。エアロゾルは空気中の小さな粒子が浮遊していることで、これが光害のほかに地球温暖化にも関係していることを知り、興味をもちました。

今回の研修会では光害について多くのことを学んだのはもちろんのこと、参加した全国の高校生と交流できたことはいい経験だったと思います。彼らとは次の学会発表で会えるので、学会発表に向けて活動を精一杯取り組んでいきたいです。



高専生と地域住民の協働による
日南町秋原地域でのまちおこし活動

建築学科 細田智久・小椋弘佳

建築学科の細田研究室と小椋研究室では、2011年度から鳥取県の「みんなで取り組むとっとり井手・ため池保全活動支援事業」の一環として、米子高専、地域住民及びNPO法人の協働による日南町秋原地域でのまちおこし活動に参加し、自然を活かした地域と農業の継続に向けた活動を行っています。

2011年6月25日(土)には、古民家かつみやを拠点とした田車押しなどの農業体験や、滝までの沢の清掃活動を行いました。両研究室の4、5年生16名が参加し、地域の方や参加者の子どもたちとの交流を深めました。2011年8月26日(金)には、古民家かつみや前にビオトープを計画するため、学生7名と地域や県庁の方々とアイデアを出し合うワークショップを行いました。子どもたちが水遊びをしたり、楽しく生物観察ができる工夫などを考えました。今後はビオトープの具体的な計画の提案・整備や、地域で収穫されるお米や野菜の収穫祭への参加など、継続的にまちおこし活動に参加する予定です。



生物系三学会中四国支部大会で最優秀賞受賞

物質工学科 谷藤 尚貴

ロボコン、デザコン、プロコン等の課外活動における本校学生の数々の活躍については、過去の彦名通信においてご存知の方が多いかと思えます。その一方で、化学や生物を主な専門とする物質工学科の学生には高専というカテゴリーにおけるコンテストが整備されておらず、学んだ専門知識を外部で力試する機会は大学生や大学院生の研究発表に混じって参加する学協会での発表に限られていると、私自身は認識していましたが、一昨年に本学科からもデザコンに参加した際、授業以外におけるものづくり活動によって学生の意欲や想像力に予想以上の成長が認められたことが転機となり、近頃は高校生の研究発表会を中心に学生へ課外の研究活動と成果発表を勧めるようにしています。その中で、今回は当学科の三年生(安倍、重永、香川、谷輪)が表題の学会の高校生ポスター部門において入賞を果たしたので報告します。テーマは「鳥の卵殻を用いた水質浄化実験」で、卵の内皮が持つ吸着機能を水質浄化に用いることにより食品廃棄物の新しいリサイクル利用法を提案したものです。今後は得られた知見から実用化材料の作成を目指すことで、次の成果に繋げていく予定です。

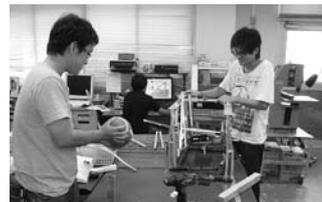


各種コンテスト予選会等の結果報告

ロボコン2011出場ロボット報告

機械工学科 大塚宏一

ロボコン2011「ロボ・ボウル」本選に向けて、予選となる中国大会が10月16日(日) 俵田翁記念体育館で行われます。本校からは6月16日(木)に行われましたロボット説明会で概要を発表した「迅速火弾(ラビッド・バレット)」と「QBit(キュービット)」の2チームが参加します。学生たちは夏休みを返上して一生懸命にロボットを製作し、今も大会直前ということで最終調整に全力を注いでいます。中国大会(山口県宇部市)では多くの方の応援をお待ちしております。(中国大会の詳細は次号にて報告します。)



プロコン予選結果

電子制御工学科 河野清尊

全国高等専門学校第22回プログラミングコンテスト「KIZUNA2011」の予選(書類審査)が平成23年7月30日(土)に舞鶴市総合文化会館で行われました。本校からは課題部門に2作品、自由部門に2作品、競技部門に1作品をそれぞれ応募し(フルエントリー、7年連続)、以下の3作品が予選を通過しました。本選は舞鶴高専を主管校にして平成23年12月22日(木)・23日(金)に舞鶴市総合文化会館で開催されます。

予選通過チーム

■課題部門 テーマ「旅とコンピュータ」

作品名:「SnapSwapTrimap
—携帯端末による景観再現・創造—」
参加学生:D5梶間光法、D3亀井千佳良
D3鷺見知洋、D3近藤醇
D3田中雄介
指導教員:河野清尊先生

■自由部門

作品名:「ひろイケ!キネクト交響楽団
—指揮者・楽器演奏体感システム—」
参加学生:D5花井浩介、D5山根剛
D4廣池颯人、D4貝田祐輔
D4下尾賢二
指導教員:河野清尊先生

■競技部門

作品名:「パズルそろったあああ〜!
— i'm lovin' bit —」
参加学生:E4澤下陽、E4木村勇太
E4松上寿支
指導教員:倉田久靖先生

デザコン2011予選結果

建築学科 高増佳子

今年のデザコンは、建築学科で空間部門・環境部門・ものづくり部門に、3年生以上の授業で取り組んできました。空間部門は8/11に校内選抜発表会も行い、環境部門も含めて予選に通過しました。構造部門は9/26に校内予選で2チーム選抜しました。今後、11月12日(土)・13日(日)に釧路で本選が開催されます。

●空間デザイン部門「地域にひらかれたサテライトキャンパス」

4A 足立恵里子 5A 美住直毅、森岡涼太

●環境デザイン部門「地場産材を利用したセルフビルドハウス」 S1 角隼人

●ものづくり部門「紙でつくる楽器」 米子高専からは予選通過なし

○構造デザイン部門「片持ち構造物の強度コンテスト」

予選無しで各校から2チーム本戦に参加します。



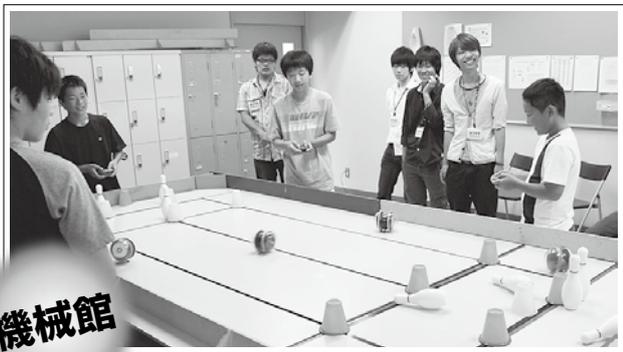
校内選抜発表会の様子

平成23年度行事予定(後期)

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 土		1 火	水曜授業	1 木		1 日	元日	1 水		1 木	臨時休業 認定会議 春分の日 卒業式・修了式 学年末休業
2 日		2 水	文化祭準備	2 金	後期中間試験	2 月	振替休日	2 木		2 金	
3 月		3 木	文化の日・文化祭	3 土		3 火	冬季休業	3 金		3 土	
4 火		4 金	文化祭	4 日		4 水		4 土	4 日	4 日	
5 水		5 土	文化祭片付け	5 月	後期中間試験	5 木		5 日	5 日	5 月	
6 木		6 日		6 火	後期中間試験	6 金		6 月	6 月	6 火	
7 金		7 月		7 水	後期中間試験	7 土		7 火	7 火	7 水	
8 土		8 火		8 木	後期中間試験	8 日		8 水	8 水	8 木	
9 日		9 水		9 金		9 月	成人の日	9 木	9 木	9 金	
10 月	体育の日	10 木		10 土		10 火		10 金	10 金	10 土	
11 火		11 金		11 日		11 水		11 土	建国記念の日	11 日	
12 水		12 土	第2回オープンキャンパス 高専大会(冬季)	12 月		12 木	学習到達度試験(3年のみ)	12 日		12 月	
13 木		13 日		13 火	スボレク大会	13 金		13 月	学年末試験	13 火	
14 金		14 月		14 水		14 土		14 火	学年末試験	14 水	
15 土		15 火		15 木		15 日		15 水	学年末試験	15 木	
16 日		16 水		16 金		16 月		16 木	学年末試験	16 金	
17 月		17 木		17 土		17 火		17 金	学年末試験・終業式	17 土	
18 火		18 金		18 日		18 水		18 土		18 日	
19 水	特別行事	19 土		19 月		19 木	推薦入試	19 日	入試(学力)	19 月	
20 木		20 日		20 火		20 金		20 月	入試(面接)	20 火	
21 金		21 月		21 水		21 土		21 火	補講	21 水	
22 土		22 火		22 木		22 日		22 水	補講	22 木	
23 日		23 水	勤労感謝の日	23 金	天皇誕生日	23 月		23 木	補講	23 金	
24 月		24 木		24 土		24 火		24 金	補講	24 土	
25 火		25 金		25 日		25 水		25 土		25 日	
26 水		26 土		26 月	冬季休業	26 木		26 日		26 月	
27 木		27 日		27 火			27 金		27 月	臨時休業	
28 金		28 月		28 水		28 土		28 火			
29 土		29 火		29 木		29 日		29 水		29 木	
30 日		30 水		30 金		30 月				30 金	
31 月				31 土		31 火				31 土	

中・高校生科学ゼミナール(スーパーエンジョイ科学館)

「鳥取県中・高校生のための知的冒険事業」との連携講座として、「スーパー・エンジョイ科学館」を8月12日(参加者総数75名)に開催しました。本校の学生による丁寧な指導が大変好評でした。



機械館

アクロバティックロボコンをつくろう!

- ・ロボコンは思うように動かすことができないので、難しかったけど、回数をこなすうちに上手くなっていき、テクニックをつけていくことができた。
- ・作成するときにスタッフの人が優しく教えてくれました。
- ・ロボットの操作は難しかったけど面白かった。



電気情報館

エアシュートサッカーロボをつくろう!

- ・作るだけでなく実際に動かすことができたので良かった。
- ・スタッフの方が優しく、教えていただき嬉しかった。ロボットでトーナメントをしたのが面白かった。
- ・とても面白く、対戦なども楽しく思いました。



電子制御館

コンピューターロボットを作ろう!

- ・コンピューターロボットは小さな部品からできていて、すごいなと思いました。
- ・プログラミングはもっと難しいと思っていたけど、意外と簡単でした。
- ・説明が分かり易くて面白かった。



科学捜査館

DNA鑑定で犯人を捜そう!

- ・内容が面白い。実験がいっぱいできて楽しかったです。
- ・説明が細かくあって、分かり易かった。楽しかった。
- ・実験が楽しかった。



建築館

3Dだまし絵に挑戦!

- ・本当は坂を下るビー玉が登っているように見えて面白かったです。
- ・だまし絵をつくってみたら楽しくなってきました。家でもまた作ってみたいです。
- ・楽しかった。優しく手伝ってくれてうれしかったです。



理科館

きれいな星空を眺めよう! ～プラネタリウム作りと星空を守る話～

- ・星についてすごく興味をもてたので良かった。
- ・光害について考えることができた。電気の使い方をよく考えたい。
- ・すごく楽しく学習することができました。作ったものを家でも沢山使いたいと思います。

7・8月の公開講座・出前講座

今年度も夏季休業中に本校教員や学生が参加してさまざまな公開講座・出前講座が実施されました。そのうちのいくつかをご紹介します。

公開講座 リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう

技術教育支援センター 上田 輝美

7月30日（土）、本校において公開講座「リサイクル工作でインテリア雑貨を作ろう」を実施しました。今年度で5回目となる本講座は、普段捨てているものの可能性の発見と、ものづくりへの興味を引き出すことを目的とし、小学3、4年生10名が自らのアイデアを生かし、技術職員の指導のもと、貝殻、木の端材、割りばしやボタンなど、身近にある不用品を使い、モバイルとフォトフレームを作りました。

モバイル工作では微妙なバランス取りに苦勞しながらも熱心に取り組む、中には2個目の作品に挑戦する受講者もありました。フォトフレーム工作では、好きな材料をどんどん貼る子がいる半面、一つ一つじっくり吟味して選ぶ子もあり、出来上がった作品も個性豊かで、まだ糊が乾き切らないうちから、早速持参した写真を飾って、楽しそうに語り合う姿も見られました。

講座に向けては、スタッフで検討を重ね、ロープを使ったひも結びの拡大実演や動画・イラストによる説明など、受講者自らが考えながら作る事ができる工夫を行いました。受講者からは「楽しく作ることが出来た」「家でも作りたい」また、保護者からは「子どもが創意工夫して作ることができ良かった」という声が多く聞かれました。



公開講座 「家庭発！親から子へつなぐ、エコ工作教室」

技術教育支援センター 上田 輝美

8月20日（土）、公開講座「家庭発！親から子へつなぐ、エコ工作教室」を実施しました。本講座は、親子での工作体験を通し「ものづくり」の基盤を次世代へつなげることを目的とし、小学生の親子10組24名が、鉱石ラジオと廃油キャンドルを作りました。

ラジオ作りでは、アンテナに使う20メートルものエナメル線を、技術職員から「あまり強く張りすぎないように」と指導を受けながら、親子で協力して楽しく巻く姿が見られました。完成したラジオが放送局からの電波をキャッチして、イヤホンから放送が聞こえた瞬間、大歓声が上がっていました。また、方鉛鉱をタングステンの針でさぐりながら検波し、スピーカーに接続した「鉱石ラジオ」から本当に放送が聞けた時には、「石がしゃべっている！！」と、驚きの声があがっていました。

持参した廃油を使っの廃油キャンドル作りは、小学生と保護者で作業を分担して行いました。小学生は容器の準備を、保護者はホットプレートで囲んでキャンドル液を作り、それぞれ、受講者同士で歓談しながらの、とても和やかな雰囲気に包まれました。

受講者からは、「電気がなくても聞けることやさまざまな成り立ちに興味を持った」「作るプロセスが楽しかった」「身近なものを自分たちの手で作ってみたいと思った」などの声が聞かれ、科学や技術の楽しさを体感する講座となりました。



韓国の大学生との日本海・海岸清掃活動を通じた国際交流

去る7月8日(金)、学生会を中心とした本科生、更に専攻科生・留学生を加えた約30名の本校学生が、「海道をゆく～世界の平和と環境を考える研修～」のため来日した韓国・南ソウル大学生らと一緒に米子市河崎地内の海岸清掃を行い、隣国の学生との協働作業を通じ、環日本海・海洋環境問題を共に考える国際交流を実施しました。

近年、韓国・中国・ロシア等から日本海沿岸に漂着する海洋ゴミが大きな環境問題となっており、このような環日本海・海洋環境問題の解決に向けた第一歩として、数年前から韓国の大学生が日本を訪れ地域住民や地方自治体等と海洋ゴミの収集活動を行っています。この度の国際交流は、この活動の一環として米子市を訪れた韓国・大学生20名と一緒に本校学生が収集作業に参加し、拾い集めたペット・ボトルや日用品など漂着ゴミの解説に耳を傾けながら、日韓共通の環境問題に共に取り組んだものです。韓国の大学生らは、今更ながら、韓国や中国からの漂着ゴミの多さに驚いた様子で、また、本校学生からは、「日本が海により諸外国と繋がっていることを改めて実感でき、環境問題を国際的視野で考える良いきっかけになった」との声が上がっていました。引率の南ソウル大学・安副教授も、これだけたくさんの日本人学生に参加頂いたのは初めてと、たいへん喜んでおられました。梅雨明けの暑い日差しの中、清掃活動で汗を流した学生たちは、学生食堂での昼食交流会で韓国料理を共に味わい楽しい交流のひとつを締めくくり、別れ際に、メール・アドレスの交換を行うなどして今後の交流を約束する姿がとても印象的でした。(総務課専門職員 国際交流担当 田中大輔)



南ソウル大学の安副教授から漂着ゴミの説明を受ける学生達



表敬訪問した米子高専で一同記念撮影

学会賞受賞おめでとうございます

アメリカ光学会 シニア会員資格を授与

電子制御工学科 雑賀憲昭

アメリカ光学会よりシニア会員の資格を授与された。この資格は、光学分野で十年以上研究に携わり研究経歴、研究論文、受賞経験、著書、特許などの個人履歴と学会会員2名による推薦をもとに審査される。“Recognized outstanding individuals and their work”な研究者に対して毎年与えられ各国から136名、わが国から7名が授与した。内訳は、大学4名、公的研究機関2名、高専1名であった。写真は、学会Optics & Photonics News誌に載った記事です。



国際学会 Best Poster Awardを受賞

電気情報工学科 田中博美

6月26日(日)～7月1日(金)シンガポールで開催された国際学会International Conference on Materials for Advanced Technologies 2011 (ICMAT:先端技術のための材料に関する国際学会)において、研究内容を評価されBest Poster Awardを受賞しました。

発表テーマは“Novel Method to Enhance Intragrain Critical Current Density in Bi-based Superconductor (Bi系高温超伝導体の粒内臨界電流密度を増大させるための新手法)”であり、高温超伝導体の実用化につながる重要な結果が得られたという内容でした。

このBest Poster Awardは、選考対象者約100名の中から選出された受賞でした(受賞者数:計2名)。なお、高専教員による受賞は初めてでした。今回の受賞には大変驚いているのと同時に良い励みにもなりました。今後は、この研究成果を基に高温超伝導線材の開発にも取り組んでいきたいと思っております。



平成22年度 学会賞を受賞

一般科目 中川右也

全国高等専門学校英語教育学会『研究論集』第30号に掲載された論文の中から、本校の中川右也先生(共著)による論文「電子辞書と紙の辞書の比較研究:学習英和辞典を有効活用するために」が平成22年度学会賞論文に選ばれました。(編集委員より)



編集後記

今年も中国地区高専体育大会などで好成績が続出し、学内は大いに沸きかえりました。学生たちの努力に賛辞を贈りたいと思います。

紙面へのご意見・ご感想を、メール(hikona@yonago-k.ac.jp)にてぜひお寄せください。

※記事において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。

M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目、S…専攻科

例えば、「1M」は機械工学科1年生を表しています。

発行：米子高専広報委員会

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町4448 TEL: 0859-24-5023 FAX: 0859-24-5029 印刷：株式会社高下印刷
E-mail: hikona@yonago-k.ac.jp ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/ ⇒メニューより「キャンパスライフ」